

教育研究業績書

令和5年5月10日

氏名 東 斉彰 印

教育上の能力に関する事項

事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書・教材	平成17年11月	発達臨床心理学ハンドブック、ナカニシヤ出版 編著者：大石史博、西川隆蔵、中村義行 共著者：櫻井秀雄、谷向みつえ、伊東真理、斎藤智美、善明宣夫、大野太郎、最上多美子、内野悌司、日下菜穂子、山内いづみ、永田俊代、森田慎 第21章 ブリーフ・セラピー p227-234、コラム 家族療法 p235-236
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年 月	概要
1 資格、免許	平成2年1月 令和	日本臨床心理士資格認定協会 認定臨床心理士（2009号）
2 学校現場等での実務経験		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

担当授業科目に関する研究業績等

担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
心理演習	(著書) 1. 統合的方法としての認知療法 (学術論文等) 1. 問題解決技	単 単	平成23年11月 平成31年2	岩崎学術出版社 精神療	170	認知療法の理論と実際についての解説とともに、他の治療法（精神分析や行動療法など）との比較検討を通して認知療法の統合性を証した。また、治療関係の重要性を指摘し、認知療法の実践を支えるものとしての治療者-クライアント関係のあり方を論じた。 公認心理師のための簡易型認知行動

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	法とコミュニケーションスキル 2. 連携・協働をしながらクライアントに対応するには？	単	月 平成 29 年 1 月	法、第 45 巻第 1 号 臨床心理学、第 17 巻、第 1 号	療法の特集号にて、問題解決技法とコミュニケーションスキルについて、その歴史的背景から考え方、方法論について論じた。 臨床心理士が、医療や教育、福祉の現場で、他職種とどのようにかかわり、チームとしてどのように連携、協働してかかわるのかを、実際の例を提示しながらその工夫を述べた。
健康・医療心理学	(著書) 1. パーソナリティー障害の認知療法 2. 心理療法・カウンセリングに生かす認知療法	共 共 単	平成 23 年 3 月 平成〇〇年〇月 令和 2 年 2 月	岩崎学術出版社 誠信書房	本書は ICD で診断される場所のパーソナリティー障害に対する認知療法の症例集である。筆者は不安性(回避性)パーソナリティー障害の症例を提示した。自責と拒絶への怖れを訴えるクライアントに対して、認知的概念化を行い、介入した経過を報告した。具体的にはメリット・デメリット法や認知的連続表などの技法介入を用いたことを詳述している。 担当：第10章 不安性(回避性)パーソナリティー障害の認知療法—自責と拒絶の怖れを訴える女性への、認知的概念化と介入 (pp.151-165) 編著者：井上和臣、共著者：東斉彰、鍵本伸明、北川信樹、千田恵吾、多賀千明、高橋徹、友竹正人、永田原田誠一、遊佐安一郎 統合的心理療法の分類の一つに同化的統合がある。本書は、各セラピストが依拠する心理療法(精神分析療法、行動療法、パーソン・センタード・アプローチ、ブリーフセラピー)に、認知療法のエッセンスを組みこむことにより、心理療法の効果を増幅させる方法を例示し、考察している。
	(学術論文等) 1. うつへの認知行動療法の基本 2. 病院・クリニック	単	平成 26 年 7 月 平成 30 年 7 月	臨床心理学、第 12 巻 4 号 臨床心理学、第 18 巻第 4 号	うつ病への認知行動療法について概説した。認知行動療法の基本モデル、アセスメント、技法介入に分けて解説し、症例を挙げてその実際について論じた。 公認心理師の職場の業務を論じる特集号にて、精神科単科病院や総合病院、精神科クリニックなどの職場を紹介し、事例を提示して連携の在り方を考察した。